Vol.223

2020.11.26

健育祭で国会議員などの先生方と座談会を行いました

医療法人社団 健育会　理事長 竹川 節男

11月15日、「第３回健育祭　カラダとココロぽかぽかフェスタ」が湘南慶育病院で開催されました。毎回、大変にぎわうイベントながら、今年は新型コロナ禍の影響を考慮して、催し物の多くがオンラインによる実施に。院内での催し物は、十分な感染症対策の下で行いました。同日には、私や慶應義塾大学大学院の渡辺光博教授、星野剛士衆議院議員など8人での健康長寿社会に関する座談会に出席。今回は、その内容を中心に、当日の模様をお伝えします。

健育祭は、「食」–「農」「心」–「音楽」「運動」–「遊び」をテーマに、健康になる方法を知っていただくきっかけづくりとして毎年開催しています。主催は、湘南慶育病院の他に地域住民の方やまちづくり組織・市民センター、農家・飲食店の出展者、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）からのメンバーで構成された実行委員会です。地域の皆さんと一緒に楽しみながら企画・運営されるイベントで、地域に愛され、地域と共にある病院として健康を広める多彩な催し物を実施しています。座談会は、「健康長寿社会における各分野の取り組み」をテーマに、前述の渡辺教授と星野衆議院議員に加えて、市川和広神奈川県議会議員、有賀正義藤沢市議会議員、東木久代藤沢市議会議員、遠藤まちづくり推進協議会・三木勉会長、慶應義塾大学SFC研究所・原悠樹上席所員にご参加いただきました。

座談会は、冒頭で私が「大学と密に連携する民間病院という計画を慶應義塾大学にいただいてから、8年ほど経ちます。現在、湘南慶育病院の運営は順調で、一息つくことができました。ただ、計画では他にもいろいろとやるべきことがあって、現状はまだ全てできているわけではありません。今後は計画段階で止まっていた事業も、しっかりやっていきます」というあいさつをして始まりました。

今回、皆さんの話をお聞きして、湘南慶育病院の使命を改めて認識することができました。良い地域というのは、住民が「幸せな人生を送れた」と感じる所です。心豊かな人生を送るということにはキーワードが二つあって、それは“元気”と“安心”。元気については、病気の早期発見や予防のために健康診断やドックにも力を入れています。また、健康と病気の間である未病への対策や指導については、今まで以上に取り組むべきだと考えています。安心ということでは、何でも診てくれる地域の病院になることで、しっかりと地域の皆さんに貢献していきたいと考えています。

今回の座談会では、引きこもりがちな高齢者に、残りの人生をどう過ごしていただくかということも話題になりました。介護が必要になったときに施設に入りたいという方は、健育会の施設に入っていただけば、優秀なスタッフが揃っているので心豊かな生活を送っていただけるはずです。一方で、まだ施設に入りたくない、できるだけ1人で過ごしたいと考えている方も大勢います。そうした方々の希望を叶えるために、1人でも安心して暮らすことができる環境を、病院が提供しなければいけません。それを実現するのが、湘南慶育病院の開院前に構想を練っていた「Hospital in the Home」です。

具体的には、朝テレビをつけると画面に「今日は元気ですか？」と表示され、そこで「はい」に対応するボタンを押さないと同院の訪問看護チームが様子を見におうかがいするなど、自宅でも病院と同等の医療サービスを提供しようというものです。湘南慶育病院がある藤沢市遠藤地区で、いち早くこの構想を実現させたいと考えています。そして、この取り組みを成功させ日本中に広げることで、現在10年ある実際の寿命と健康寿命の差を、半分に減らすことを目指しています。

慶應義塾大学大学院・渡辺光博教授

星野剛士衆議院議員

市川和広神奈川県議会議員

有賀正義藤沢市議会議員

また、施設に入る場合と1人で暮らすのでは、どちらが幸せなのかということも話題になりました。やはり自分に合う施設を見つけてそこに入った方が、本人も安心でき、更に介護費用も効率的になると思います。しかし、どうしても集団生活はしたくないという方にとっては、施設の暮らしは必ずしも幸せとは言えません。ただ、現在独居老人の孤独死が問題になっており、その数は年々増えています。それを解決するためにも、ICTを活用したHospital in the Homeの実現が重要だと考えています。

さらに、良い施設かどうかを見極めるポイントについて尋ねられ、とにかく孤独を感じさせないことが大切だと答えました。藤沢市にはライフケアガーデン湘南という健育会の老人ホームがあり、介護だけではなくリハビリも可能です。さらに、文化的なイベントや食事会など毎日を楽しく過ごせるように、たくさんの行事を開催しています。入所者さんがそうしたイベントに参加され、常に精神を活性化させることで、健康長寿に繋げようとしています。ご家族の都合で4年ほど前に他の施設へ移った入所者さんがいて、いまだにライフケアガーデン湘南に戻りたいと言っていると耳にしたことがあります。

他の参加者からは、高齢者が心豊かな生活をするために地域のコミュニティが不可欠で、遠藤地区で春、初夏、初秋に開催される大きな祭りによって、それが形成されているというお話がありました。湘南慶育病院には、地域の病院としてはもちろん、そのコミュニティの拠点としての役割も期待されていると感じました。健育祭もその一環として、今後も継続していきたいと考えています。遠藤地区ではバックパックを背負った高齢者の姿が多く見られるため、今後は散策路の整備も計画されているそうです。健育祭のように病院と大学、地域住民、行政などが一体になり、高齢者にとってより住みやすいまちになっていくのではないかと思います。

東木久代藤沢市議会議員

遠藤まちづくり推進協議会・三木勉会長

慶應義塾大学SFC研究所・原悠樹上席所員

当日、病院では、コンサートや写真展などのイベントが開催されました。コンサートは、慶應義塾大学SFCに在学しながら国内外で活躍するバイオリニストの松本紘佳さんと、同じく国内外で活躍中のピアニストの松本有理江さんがセッション。また、鈴木則宏院長先生のフルートと奥さまのピアノによる共演もあり、両コンサートともライブ配信も行いました。また、院内の各所で、脳神経内科の北川泰久先生が撮影した写真を展示。日本各地の絶景が収められており、北川先生による解説文を掲載したパンフレットも配布していました。

今年はコロナ禍のため、残念ながら例年よりも催し物は少なくなりました。しかし、コロナ禍が終息したあとは、地域の皆さんを中心にたくさんの方が集まり、遠藤地区の三大祭りに並ぶようなイベントに育てていきたいと思っています。湘南慶育病院の構想もまだ道半ばですが、病院を中心とした高齢者が住みやすいまちの実現に向けて、今後も着実に進めてまいります。